第２回富良野市文化芸術振興条例検討委員会議事録

と　き　令和３年１１月２５日（木）

敬称略

「文化振興条例とは」「文化芸術基本法改正の趣旨」「文化観光」等についてレクチャーを受けてから意見交換を行った。

【文化振興条例とは】

・文化振興における原則。この条例はどういった理念に基づき、展開していくのかという基本理念を掲げ、市民の自主性と創造者の尊重や人づくり、街づくり、未来づくりが何を理念としているのかを明記したもの。

・条例が作られた際に、実際抽象的でも終わってしまうのか、あるいは具体的に何かを推進するということを目標としているのか。政策の総合的、かつ計画的な推進の内容に触れていく。

・前回話が出たキーワードで、子供の時から文化活動に親しめる環境を作る、演劇を重点的に支援する、文化観光に力を入れていく、等いくつか柱を立てて話し合う。

・計画をどう策定していくのかを具体的に示していく。

・政策を立案、評価するものとして審議会を設けたりもしている。

・北海道の場合は審議会を設けてはいるが、計画を策定していない為、計画の評価がされず北海道の文化奨励賞などを審議していくというふうに、意図が若干変わってきている。

・文化政策は、公共政策として位置づけられている。公共政策とは、公共の福祉を増進させるためのものであり、この最上位にあるのが総合計画で、その根拠となっているのが自治基本条例。公共の福祉を増進することが、文化政策の中では最大の課題。

・今は、基本法が改定され文化政策の役割は広がっており、公共政策に近づいてきている。

・2009 年 4 月。全国で 14.1%が文化振興条例を制定済みと回答している。2001 年「文化芸術振興基本法」以前に作られた条例は全国で 12（2020 年では 162 か所）の自治体しかなかった。北海道はそのうち 3 自治体（様似町、苫小牧市など）が、国の「文化芸術振興基本法」が作られる前に条例を作っていたという非常に先駆的な取組みをした。

【文化芸術振興基本法改正の背景】

① 制定以来 16 年が経過し、少子高齢化、グローバル化の進展など社会状況が著しく変化している中で、観光、街づくり、国際交流、福祉、教育、産業などの関連分野との連携を視野に入れた総合的な文化政策の展開が求められるようになってきた。

② オリンピックはスポーツの祭典だけではなく、文化の祭典とも言われており文化芸術の新たな価値をオリンピックを通して、世界に発信する、創造する、機会を作る為に関連分野と連携し展開したかった。

【文化芸術振興基本法改正の主旨】

① 文化財の保護、芸術文化の振興などこれまでの文化政策を更に充実しながら、観光、街づくり、国際交流、福祉、教育、産業等の関連分野を基本法の範囲に取り込む。今までやってこなかっ

た訳ではないが、法律で関連分野を明記しながら示していくことは非常に重要。

② 文化芸術で生み出される様々な価値（公共的、社会的、経済的など）、文化芸術の継承、発展等

③ 文化芸術振興以外の各分野の行政目的に基づく施策であっても、文化に関連する各分野の施策は文化芸術に関する施策となる。

・振興を削って文化芸術基本法とする、というのが大きな柱になっている。

・「文化芸術振興基本法」では、文化政策は文化芸術を振興することにその意義があるという形でやっていた。

・非常に狭い考え方だと思うが、一方で分離した形で、教育、観光、街づくり、産業、福祉、国際交流、というのがそれぞれの行政の目的に基づいて施策を行っていて、文化芸術と各分野が完全に分離されている形であまり連携が取れなかった面がある。

・この改正で、観光、街づくり等の文化関係の施策を含む文化芸術に関する施策を総合的、計画的な推進が示された。

・文化芸術そのものを振興しつつ、関連する各分野とたし算掛け算をしながら全体的に文化芸術に関する施策を総合的に推進するという法律に変わってきたのが画期的な点。

・「社会的弱者や経済的な理由で、文化芸術に触れることができない人々に全て公共サービスを行わなければならない」というのが基本理念に追加された部分でもう一つの評価ポイント。

・残念な点として、文化政策の研究者の中では「国民」という主語が、文化政策の対象にあることから在留外国人などは排除されてしまわないかとの点があげられる。

・改正基本法により、文化庁では芸術教育に関して、非常に力を入れている状況。

・「文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展、及び創造に活用することが重要であることに鑑み文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ観光、街づくり、国際交流、福祉、教育、産業、その他の各関連分野における施策との有機的な連携が図られるよう配慮しなければならない」というのが今回新設された条文。

・文化芸術がもっている意義、価値を尊重しつつ、それを踏まえて色々な分野との有機的な連携が図られる必要がある。

・こういった法律の改正を受け、福岡県では令和２年４月から条例を制定した。

【福岡県文化芸術振興条例】

・早速基本理念に、「国際交流、福祉、教育、産業、観光、その他の関連分野における施策との有機的な連携を図られるよう配慮しなければならない」というのが加わっている。

・第四節の「文化芸術を活用した地域づくりの魅力の発信」というのも非常に先進的な取組みとして評価すべき。

・第 29 条では「県が文化芸術の活用による地域の活性化を図る為、文化芸術を活用した街づくり、並びに産業及び観光の振興にする取組みを推進するものとする」としている。

・文化芸術による文化的価値というのもあるが、都市政策の中で文化芸術を確認して繋げていく、あるいは活用していくという意思が伺える。

・第 30 条では「県が県民とアジア、その他の地域の人々との総合理解の促進及び友好提携を締結している地域、その他の地域との関係発展を図る為、文化芸術を通じた国際的な交流に

する取り組みを推進するものとする」とある。
・福岡県はアジアとの交流を大事にしているが、その中でも特に文化芸術を通じて国際的な交流にする取組みをすると書かれている。
・条例を作る事には様々な意義があると思うが、このように検討委員会が作られ、住民の方々、専門家、行政が入りどのように作ればいいか、参画と共同で条例と計画を作り運用していくという可視的、民主的なプロセスが作られていくことが街の力にもなっていくし、このプロセスこそ私が最も大切だと思う部分。

【長野県の文化観光の事例】
・国内外から演劇、ダンス、映像など様々なジャンルで活躍するアーティストやカンパニーを長野県に招聘して文化施設、民泊施設や空き家、貸別荘等を用いて滞在政策をやりながら行っていく事業。
・文化施設の中で行える演劇やダンスを街の至る所でこのようなプロジェクトが展開され、見ることで行ったことが無い街にも見に行くことができるし、富良野市に住んでいる市民にしても道内外、海外からも普段行かない所にも足を運んでくれるのでは。
・実際、果樹農園の販売所で演劇を公演した。舞台があり照明器具があることも大事だが、文化芸術が日常的な空間の中で行われているのも楽しいと思う。
・「禅と狂言の行ったり来たり」の演出家のメッセージを見ると、演劇を作るには色んな問いがあり問い続けることが大切だと。これは禅にもつながる話のようで、実際お寺でお茶の体験をしたり、その後自分が何かしらの自由な表現をしていく
・実際、道外、富良野市外の人からすると、お寺に行き、体験をし、文化芸術の表現をすることで新たなコンテンツが生まれるのではないか。

【白老町の「歩いて巡る野外写真展」】
・昔のまちの様子などの写真を巨大に印刷し、民家等の外壁に貼るというもの。
・実際に行ってみると元からあったのかと思う位、違和感がなく馴染んでいるのが素晴らしい。
・一軒一軒歩きながら、街に残っている歴史を写真を通して考えたり、住民とのコミュニケーションが生まれたりする。

【クロスホテル札幌の例】
・一つ一つの部屋に作品を飾り、アートルームを作った。
・単純に絵を飾るということではなく、北海道のヒグマや北キツネ、アイヌの模様、北海道遺産など様々なテーマで作家さんに描いてもらい、ホテルオリジナルとして製作した。
・富良野にも様々なアーティストはいるだろうし、富良野市の歴史、風習などモチーフにしてホテルの中などに作品を飾ることで、訪れた人、見た人が興味を持つきっかけになるのでは。
その部屋でしか感じられない特別感もあり、富良野が文化の街だと感じられるだろう。
・アートや文化を介して国内外からの旅行者と地域との交流を図ることで、新しい賑わいを創出することを狙っている。
・クロスホテルの場合は急に始めた訳ではなく、アートフェア（部屋に作品を飾り、オークショ

ン形式で売っていく）というものをやっていた。ここに参加している方達も北海道出身、北海道に住んでいるということで、北海道の作家さんを知ってもらうきっかっけにもなるし、絵が売れたことでアーティストの収入にも繋がる。

・北海道の歴史や自然を大切にし、そこからモチーフを得て材料を調達し作った作品。単純に格好いいだけでなく、歴史、北海道ならではの自然、環境を知ってもらうきっかけ作りにもなるのではないか。

・富良野でも大きなイベントではなく小さなことから起こしていく取組みが必要。子供たちの日常生活の中に作品を置くことで、敷居が高いと思われがちなアート作品への考え方も変わるかも。

【プロジェクトを推進していく為の中間支援組織】

・中間支援組織は行政と市民をコーディネートする、あるいはアーティストと市民をコーディネートする組織と言える。

・中間支援組織の機能は、ネットワーク機能例えば人と人を繋げる、あるいはコーディネートする、仲介していく、政策提言、政策提案、資金面の支援、情報提供、相談窓口など。

・文化芸術活動をやりたいが様々な課題がある時に、行政だけでそれを全てまかなっていくのは難しいので、中間支援組織が市民とやりとりをしながら、問題の解決または行政に繋いでいく窓口になることができる。

・前回話があったが、文化芸術、観光情報などを全て集約し発信していく事は、リアルタイムでの情報収集はできないし、生の声が届きにくい為行政には限界があると思う。

・中間支援組織を設けることで、市民が何を求めているのか知ることができ、情報を随時リアルタイムで発信することで求めている人に届けやすくなる。

・こういう組織があることで、若い人を巻き込み文化芸術の担い手が育成、文化芸術の活発化につながる。

【意見交換】

吉田　文化振興条例の制定にあたっては北海道の方針に従わないといけないのか。
今回紹介していただいた事例は、中間支援組織があったから出来たのか。

関　道が作ったから市町村が従わなければならないということはない。自治体が意思を持ってやるべきだと思っている。ただ、国が策定した推進計画の中では、市町村も推進計画を策定する努力をするように言われている。
長野県の事例は中間支援組織がマネジメントして実施した事例。

吉田　条例を作る為に我々は集まっているのだが、抽象的な条例になってはいけないと思うが具体的な文化の発展との繋がりがよくわからない。
道の条例の中身を知った上でやっていった方がいいのでは。

閔　条例を作ることだけが目的ではなく、富良野市はどんな街を作りたいのかを共有し、目的を一緒にしていくことが大切だと思っている。前回、演劇や教育などいくつかのキーワードが出てきたが、富良野ならではの街のビジョンをどう掲げていくかが１番大事だと思う。具体的なことは計画で明記できる。まずは、条例の柱をつくりたい。道の条例は文化的権利の考え方が評価されている。機会を見て紹介する。

中村　今日のゴールは？

閔　前回、文化観光についてあまり話が出てこなかったので、今回テーマにしている。自由なアイディアで富良野の文化観光にはどんな可能性があるか話すことで、富良野市が持っている歴史的な資産などが分かってくる。

中村　北海道が先駆的に条例を制定し、文化施策を行ってきた要因は？

閔　北海道文化財団の理事長が文化部の課長の時に、条例を作り北海道文化財団の設立根拠となった。

中村　基本法になってから、多角的な視点で文化や芸術を捉えていると思ったが、見ようによってはぼやっとしたようになっている。掛け算やたし算は今後の世の中的には大事かと思う。富良野がどういう方向でやっていくかをこの場で決めていくイメージでいい？

閔　柱みたいなものができていくと良いと思う。政策の中核機能は、文化芸術振興というのが避けられない。ただ振興基本法の時には文化の振興にフォーカスしすぎた。政策を拡大していくには、他のジャンルと掛け算をして予算を増やしていくが、これができなかった。

中村　富良野もコロナ禍で文化も循環するモデルを目標にしている。色んな施策と分野においてリンクが必要だし、やっていることをもっと市民の方に周知してもらうことが大事。

閔　自治体で文化芸術がなかなか広まらなかった理由として、教育委員会の所管という点があげられる。教育委員会の中ではどうしても教育に主眼がおかれていた。今は状況が変わってきていて、福祉、医療、経済などに文化が繋がっていくが、多数の自治体では教育委員会が所管している。富良野は市長部局が担っているので、条例を作ることにより、文化を中核にして繋がる街のモデルになっていくのではないか。

中村　同意します。
文化振興されている方もたくさんいらっしゃるので、この街がもう少し見せ方として文化が広がっていくと潤った街になる。西会津の芸術文化村は過疎化が進み空き家が多かったが、街自体を演劇のステージと捉えあ、廃屋も大道具さんが作ったセットのような見せ方をしている。街の中を歩いていてすれ違う人すら演者に見える。そんな演出を富良野でもやれたら観光にもつながっていいなと思う。

関　　その場合は、演者の力量をあげるためにも舞台を踏んでいくことを同時にした方がいい。その点、富良野は劇場があり舞台がある。こことどうリンクしていくかが大事。

石平　　まず文化というものが変化してきている。
30,40 年前には、街の子供たちや市民の芸術活動にいかに発表の場を提供するかということが文化だった。中村さんも言っていた視点をどこに持っていくかが難しい。ナチュラクスホテルを建てたのが 2007 年。コンセプトが首都圏のクオリティを持ったホテル、ストレスを感じないで富良野を体感できる。富良野には有名な文化人がいるが、それを宿泊施設の各部屋の中に表現できたら身近なコンテンツになる。富良野はどう統一した表現ができるのか。一度外に出て戻って来ると良さもわかるが、勿体なさも感じる。（芸術家等の）博物館やメモリアルセンターなどがあってもいいし、それが中間的支援にもなる。あれもこれもではなく、富良野にはこれがあるという一つのコンセプトがあればいい。見せることで子供の教育にもなる。

関　　先ほど文化芸術が産業や福祉と繋がることでぼやけてしまうのでは、という意見がありました。視点を変えて、文化政策は公共政策なのかの観点から考えてみます。公共政策とは人の暮らしを豊かにする政策の事。文化単独でも可能ではあるが、例えば医療現場や経済面において文化芸術が貢献できるとなると政策としてどんどん成長していくと思うので、ぼやけるということではなく、文化政策が公共政策の位置づけになっていく為に必要なものだと思う。

中村　　地域、地域でレベル感は違いますよね。富良野だと観光や農業が抜きんでる可能性がある。

関　　新しいものに目がいきがちだが、富良野にも文化遺産が眠っていると思うので、もう一度掘り起こしていくということも大切。

岡本　　文化芸術振興が誰のためのものか。誰の視点なのか。例えば外から富良野に来た観光客なのか、市民が文化芸術を感じられる街を目指すのか。

関　　計画の部分でこういうプロジェクトができないかなど意見が出せるので、柱はもっと抽象的でいいと思う。観光を文化と一緒にやるのかどうかなど抽象的な議論になるが、条例で定めることによりこれに基づいて計画が作られていく。もし観光が議論から抜けた場合、新たに計画の中で観光との連携に触れるのは難しい。なので、観光にはこんな可能性があると明示し、条例にどんな言葉を盛り込んでいけばいいか皆さんに考えてもらいたい。具体的なものは計画で検討していきたい。法律で取り上げているから、とりあえず条例で観光に触れるという安易な考えより、本当に富良野に観光が必要で文化芸術もこういう可能性があるのだから、条例に盛り込むという少し納得した形の方がいい。

太田　　少し乱暴な言い方をすると、幅広い抽象的な文言で条例はすぐできると思うし、作ってほしい。

僕らがやるのはその先のことなのだと思っている。条例を作る為の話しはなかなか盛り上がらない。

関　伝わりにくかったかもしれない。条例にはある程度のフォーマットはあるが、少し具体例をイメージして議論していく場が大事だと私は思っている。今は具体的な例を出していくのも大事だし、今までこういう場がなかったということもあり皆で意見交換しながら議論して深めていきたい。

太田　わかりますが、そこの議論はもっと具体的なテーマの中でやりましょう。でないと今のここから抜け出せない。

関　では富良野市で出来る文化観光プロジェクトはどのようなものがあるかについてアイデアを出し合いましょう。ターゲット層は富良野市民かもしれないし、道外の人かもしれない。外国人かもしれない。期待効果の見込みはどこにあるのかを出し合いたい。

太田　観光を、文化を使ってお客さんをどう呼び込む作戦かってことですね。分かりやすくてこれなら意見が出そうですね。

関　文化観光は観光を目的としてアートが道具化されるものではなく、文化芸術の理解を深めてもらうことが目的。

桑原　確認です。
話のテーマが「文化観光」だが、今後柱になる部分が例えば、富良野の文化芸術を生かした特色ある教育活動とは何かみたいなテーマで次回話せるとか、文化の持つ広い分野の中で観光経済もあるし、教育というジャンル、福祉というジャンル、農業イコール食文化という捉え方をした時に 4 つのテーマで、今日は文化観光、次回は農業・食文化、次回は教育、次回は福祉というテーマについて話し合いが続くようなイメージですか？

関　前回も富良野は観光を目指しているという話でしたが、文化観光が皆さんの中でイメージできなかった為出てこなかったのか或いは、出来てはいたが文化政策の中で観光はそこまで扱わないと考えて出なかったのかわからなかった。そのため今日はこの観光を軸にした。次回は今でてきているものをもう少し掘り下げてみる。　その中でもしかしたら農業も出てくるかもしれないと考えている。12 月まではできるだけ皆さんの意見を聞きながら柱を作っていきたい。

桑原　質問の意図は、前回の時、演劇を中心としたコミュニケーション能力の育成という話が出ていて、今後教育活動に文化をより強く位置付けて富良野の特色にしたらよいのではと発言したがその後の校長会で、この会議を話題にしたら予想外の反応があった。
富良野の教育行政執行方針の文化芸術による資質能力の育成という項目の中に、演劇工場を通した事業を積極的に活用するとか、鑑賞の機会を学校で取り入れましょうというのがある。
条例にこの文言が入ると制約として受け取られる可能性もある。この間の発言のように富良野

市の校長会の総意として無責任な発言はできないと反省した。次回ここでもし、特色ある富良野の教育活動という話になると受け止めることが難しくなりそう。とりあえず今回は文化観光を理解するという意味で、ざっくばらんに思ったことを話そうということでよろしいか。

太田　条例になると具体的にどういうことが起こるイメージ？

桑原　演劇工場の取組みが今のレベルならまだいいが、特定の学年だけやっていたものを全学年やるようになると捉えられる可能性もある。条例となると振興計画よりも、縛りがきつくなって、やらなければならない受け取られ、学校ごとの特色が薄れてしまう恐れもある。

太田　よくわかりました。そうなってしまうのも良くないと思います。

石平　富良野を良くするとか特徴あるものにしょうとした場合、他の街とは違うコンテンツは作るべきだと思う。富良野は演劇の街だから子供たちは皆演劇に触れ合えるのは良いコンテンツ。
富良野は観光なら、富良野に来たら高校あがるまでには日常会話くらいの英語は話せるといい。コミュニケーション能力の低下を何で補うか。それは演劇であったり、子供たちが世界に羽ばたくために語学に今より更に力を入れるなど、周りが環境を作ってならないといけない。

桑原　誤解のないように説明したいが、私は富良野小で一般教諭として６年勤務し、校長で戻ってきた。他の自治体も見ながら戻ってきて、改めて富良野の力を実感している。未来づくりフォーラムが昨日行われたが、これからの富良野の為に色んなことを考え、課題を洗い出し、子どもレベルの解決策を提案して行く取組みで市長はじめ役所の幹部もいた。最後に市長がアイデアを積極的に行政の中に反映させていきたいと言っていた。富良野で校長をやるのなら、富良野の方針に沿って学校の特徴を出していかなければならない。
だが現実的に富良野の学校は他の自治体よりやることが多く、その中の限られた時間と教員の働き方改革で慎重になる人がいるということを理解してほしい。富良野の子供の為に頑張らない。ということではなく、条例にその文言が明記されれば意識した学校教育をしていくし、富良野の街づくりとして観光や文化、演劇でスポットが当てられるならそれを意識した教育課程を編成していかねばならない。ただ、私は富良野出戻り組として富良野の良さや魅力、力を感じたのでその財はどんどん使っていくべきだと思うが、学校により状況が違うため全体の総意とは言えない。これをまた教育について思ったことを話し合うようになると私一人では受け止めきれないので冒頭の発言となった。

原田　話しをすることはいいが、それが条例文の中でどう生かされていくか心配だし、その条例が各学校なり地域なりの段階でどう消化していくかも不安。もう条例の案を提示してもいいのではないか。

関　先ほども話したが、条例を提示するには、何を目指したいのか何を軸にしたいのかキーワードがないと行政と私で作ることはできないので、皆さんでまずそこを出していかないと。

富良野で一番力を入れたいところ、特徴としたいものは何かが出てこないと、ありふれた条例文になってしまい、逆に計画を作る時に困ってしまうだろう。その辺について皆さんで議論をし意見交換した方がいいと思う。

太田　関さんは地元の思っていることを聞きたい、引き出したい、思っていることをどんどん言って下さいと言っているんですよ。

岡本　その中に問題点やキーワードがでてくれば、条例に落としていこうということですね。

太田　今聞いて初めて知ったこともあったから、合っている合っていないではなく脱線してもいいから言っていればいい。

中村　ここで出た話がそのまま条例になることはまずないだろうが、校長会なり影響を受ける団体や組織にコンセンサスをとって条例にするというのは当たり前。

太田　条例というものがどういう拘束力を持つのか実際よくわかっていないが、気になるのが、出来た後に誰がそれを進めていくのか、中核になる組織を作るのか。それも含めてここで話し合うのか。

関　中間支援組織を設けた方がいいのではないか。

太田　どう考えても設けないとだめですよね。

関　条例の中に、団体というのは芸術文化活動だけではなく中間支援組織の育成も必要だなどの文言もつけ加えていくことができる。自由に皆さんで、富良野には中間支援組織はないねとか育てる必要性があるねって話して拾っていけたらいい。

太田　どこまで話してどこまで決めていくことなのかがまだわかっていない。だから具体的なことを話しても仕方がないと思う訳です。

関　とにかく皆さんで文化芸術をどのようにしたいのかをどんどん広げていくと、市にもやりたい方向が見えてくる。

太田　まとめようとか、僕らが責任を持つようなことではなく、市民としての意見、ただ考えていることをバンバン言えばいいと思っていい？この後どうなっていくのか・・人間だから先を考えてしまう。

関　先のことを感がると視野が狭くなる。それは後でいい。

藤田　今話し合っている条例は、柱を作るのであって窓や家具の配置まで決める話ではない。それは具体的な計画を策定する作業の中でやること。条例の中に具体的な細かいあれしろこれしろの話をする訳でもないのでしょ。

関　そうだが、特徴をつかむ為には具体例がないとイメージ共有ができないと思う。
太田　それは関さんがわかればそれでいい？

関　私だけではなく市の方も。

太田　僕らがまとめたりではなく、思っている事考えていることを聞かせてと言っているのならもっと自由に色々話せる。まとめなくて良いのであれば出すのは簡単。

吉田　ちょっと混乱していますが、１回目のポイントで４つのキーワードをピックアップした。
今日はそこをもう少し掘り下げていくのかと思っていたが、そこになかった視点として観光を持ち出してくれた。それを条例に入れるかどうか、観光についてのイメージを皆さんで話し合おうということですね

関　前回出してもらったものは既存のものが多いと思った。10 年 20 年 30 年先と考えた時、新たなキーワードを盛り込んでいかないと、発展に繋がらないのかなと思った。
（福岡県の条例の説明）
これだけ見て影響を受ける人はそれ程いないと思うが、何をやりたいかは見えてくるはず。

太田　これを作るための作業という事ですね。

関　そうです。

石平　富良野は夏はアジアだが冬は欧米でそれも特徴。

関　福岡県はかなりアジアに特化した取り組みをしている。
富良野の場合は外国人と国際交流を図りたいので、そこは特に触れなくてもよさそう。
外国人を観光客として留めるのか、国際交流の一環として異文化交流をしていきたいのか、
そこが大事。

太田　外国人ということで言うと、北の峰地域で外国人が土地を買い、ニセコと近い状態になってきていることを懸念している人間はいっぱいいる。それに対して石平さんはどのように思われます？これ、どうするかは大きな問題ですよ。

藤田　前回、問題提起しましたよね。

石平　ニセコとは違うと思う。北の峰も宅地にできる範囲は決まっているし、意外と狭い。市の方で網掛けをしっかりして頂かないと。

原田　富良野は網掛けが厳しい。厳しいから転売になる。

太田　そういうことですか。儲からないから転売するということ。

原田　そればかりではないが、景観条例（高さ制限）、色彩の問題もある。

藤田　作ろうとしている条例は今現在の資源に対してのものではないと思う。30 年、50 年先に住んでいる人間あるいは富良野においでになる方にとって、どんな文化を作り上げていくかがこの条例の目的だと思う。だとすれば定住する外国人との文化のギャップを埋めていく作業も必要で、それも入れた条例にしなければならない。

関　多文化共生に関して文化政策の条例の中に、触れているところもある。文化芸術を通じてお互いに交流を促進していくとか、社会参加していく等は可能だと思う。

藤田　富良野に定住しようとしている方が富良野の文化レベルに触れて一緒に地域社会を作ってもらう精神は必要ではないか。

関　岐阜県可児市では、日本人と外国人が一緒になり作品を作ったりしている。この人たちが文化芸術を通じてどうやってお互い交流できるのか、考えるのも楽しい。多文化共生はキーワードとして今後入れてもいい。

太田　ロングラン公演が目標で、外国人が来ても見てもらえるようにしたい。字幕を出したりもカナダで経験済み。ホテルのおもてなしと僕らのおもてなしは繋がっている。住んでほしいとは、また違う意味合い。そこをどうイメージするのかは難しい問題だと思っている。

関　わたしが答えるべきかわからないが、ビジネス目的で家を買って問題を起こしている外国人もいる。一方で、富良野が好きで在留している外国人もいる。どこを大切にすべきかというと、この富良野の魅力に惹かれて在留している外国人とどうやって共生できるのかが大切。文化は大きな貢献ができる。

太田　共生する為に文化は一番いいアイテムになると思う。

岡本　話が戻りますが、この会議はブレインストーミングをしているというイメージ？今色んな意見が出ていて、それをベースに私も考えようかと思っている。さっき“おもてなし”というワードがあったが、外から富良野に来ておもてなしを感じない。地元の方は感じないかもしれないが、ウエルカムな店もあるが地元の人じゃないと冷たい感じの所もある。申し訳ないが、塩対応は富良

野のイメージをすごく変えてしまうと思う。何人もの友人も親戚も来ているが、悪いイメージで帰ってしまうことが多い。個人的な些細なレベルの話しかもしれないが、自分の行った観光地ではすごくおもてなしを感じた。富良野だけでなく北海道は、「大自然がおもてなしでしょ」と思っているからか、おもてなしを感じない。他の観光地に行くとその差を感じるので、富良野の市民のなかでも共通項として、誰か外から来てくれたら嘘でもいいから「ありがとう」という表現をするとか・・。

原田　富良野の人は割と表現が下手。来てくれてありがとうという気持ちをどう表現するか、非常に難しい。

中村　そういう文化作りをしたいですよね。

太田　まさに人なんだということ。僕も移住者なので岡本さんの言いたいことはよくわかる。

石平　原因は２つある。ひとつは農耕民族だったので、この雪の深い中で作物を食べて暮らしてきて、外にどうのという性格ではない。もう一つは、黙っていても人が来る富良野が豊かな時代があった。でももうそんな時代では無い。他の市町村が切磋琢磨して人が来るようにやっているのに、富良野は困っていないと勘違いをしていた。

太田　ふるさと納税がそこにきている。富良野のふるさと納税はひどいと評判。

石平　間違いに気づいた人も増えたので、富良野は変わると思う。

岡本　これだけ素晴らしい景色や美味しい物があり、更に人のあたたかい一言、ふれあいがリンクされたら、富良野よかった、富良野に住みたいに繋がっていくのでは。一番胆の「人」の部分が欠けている。

太田　一番、絶対的に大事なのはそこです。意識の高い人もいるが、少ない。商店街がしっかりしていれば人的交流、街の人達の交流が行われ地域文化ができたはずだが、ドーナツ化現象で商店が減少しているのもその要因。仰る通り、「人」の育てをしなければならない。

中村　観光プロジェクトと言いながら多分内側の話しだと思う。インターナルの人達は、「海外の人達が入ってきている」「第二のニセコ」という言葉に恐怖を覚えているそこには疑問もあり、ニセコの何が悪いのかわかっている人は少ないと思う。外部の状況を知りつつ、共生、共存できる為に富良野は何ができるか多様性を持った、教育もそう大人も文化作り、心作りができると富良野は唯一の街になれる。ニセコだけが先行して、何でニセコが悪いのかを突き詰めていない。
ビジネスとはいえ、なかには日本の文化を感じたいとか繋がりたいという外国人もいる。社会貢献ができる為のフィルターを作ってあげるとか、発掘してあげるとか、仕組みを構築してもっと触れられるようにするとかできないか。せっかく来てくれている良い要素、素材の人が教

育に係わったりできるよう、共存共生のためにこちら側も寄る必要がある。ゴミ分別も文化。海外の人とすれ違っているのはゴミの出し方だが、それもこちらが歩み寄って、来てくれてありがとうねって言える環境作りが大事。

岡本　もっと地元の人が富良野に対して良さを知り、自信を持つ必要がある。昔から住んでる人は、慣れてしまって良いも悪いもなく居心地の良い環境で、ただただ生活しているというのがあると思う。自分の街を知ることが地元の人の側にも必要。良い所があることを伝えられる位の想いを持つとか、譲歩できるところはして、提案するような意識改革も必要。

中村　演劇工場は良い場所なのに行ったことが無い人もいるのでは

太田　演劇工場に行ったことがない人もめちゃくちゃいますよ。もっと来てほしいな。

岡本　地元にせっかくあんないいものがあるのに。

吉田　生活に余裕がないと行けないというのがあるので、地域住民割りとかあると誰でもいける。
こんなに自然があって身近に演劇もあるけど、富良野は遊べない、余暇を楽しめない。演劇にお金を払って見に行く余裕のない若者や、外国人にはチャンスが無いので 10 年先には垣根を下げるような街になってほしい。

太田　演劇に行くお金の無い人にも当然見せてあげたい。ただでいいですよという気持ちはあるが、現実的にどういうシステムでやるかは別の話しで逆にできたらすごいと思う。誰にでも等しい演劇工場でありたい。どうやったらできるのか一緒に考えてもらいたい。

吉田　文化を享受する権利を法律で謳っているのだからそれは税金を使って政治がやること。

中村　現地に行かなくても見ることができる、例えば空間上のＡＲでやることもできなくはない。今開発中です。

太田　磯田さんが言っていた道のお金の何％かを文化のために使う費用に充てる、というのは富良野市の財源の何％かを、貧しい人達でも見れるような機会の為に使うとかに充てられる？アイデアがでてきたら、知恵も必要だがお金も必要。それは条例に記載するものなのか。

関　それを実現したいのであれば、条例に書くことはできる。でも条例は検討するにあたり、通常は最低１年は必要。今回３、４か月しかない中で、明確に書けるかというとちょっと難しいように思う。少し広い感じで書いていき、計画の中で具体的に文言を入れるのが良いと思う。

桑原　財源について、民間の力だけに頼ることはできず、行政がどこまで財布のヒモを緩めてくれる

かは重要な要素。以前勤務地だった道北の町では、ふるさと納税は富良野の３倍以上、１億数千万の納税がありこれはある程度の使い道を見越して寄付されているお金。児童数は少ないが全校てがきれいで、営繕から何から瞬時に対応してくれる。利便性のいい場所ではないが、そういう豊さが、子供たちや地域の人達の心を豊かにした側面もあった。富良野市はどの程度文化芸術にお金を掛けられるのか、分かっていたほうが話がしやすいのでは。

中村　去年、総合計画策定に関わらせてもらい、財政の事を事細かに見せてもらった。これまでは成り行きで来ていた部分もあるが、ふるさと納税もすごく動き始めて、今、民間も行政も一緒になり、共創して作りあげている。少しずつだが売上も増えてきて、去年の 1.5 倍の状況。今後行政側に求めることは、売り上げがあがった分の財政の原資をどこに充てるか。例えば、ふるさと納税であがった１％は文化芸術に充てるという話の提言をこちらでさせてもらい、市長がＯＫならそれでいくとかも考えられる。

太田　条例を作ると国からお金がもらいやすい？

関　ないです。自治体で原資を作らなければならない。

中村　何かの補助金はでますよね。

安西　補助金は事業別により探すしかない。

太田　条例を作ったからどうこうなるものではないということですね。

安西　富良野市が新しい文化条例を作るということで、まず市の柱として文化があるという位置づけができることにより、市として今までよりも文化にもう少し力を注ぎましょうという態勢ができてくると思う。それにより自ずと予算もつきやすくなるのかなというスタンスで、我々担当者は思っている。

太田　ふるさと納税と文化を絡めてすごいものを作って大ヒットを目指す。例えば僕が一日出張でワークショップやるだとか、農産物と文化を絡めるとか。その代わり、売り上げが文化に全部使われるという提案もある。

石平　子供たちの教育の予算が厳しいという話があったが、富良野は今 60 億円の庁舎を建てている。ある町の庁舎では世界的に有名な建築家のデザインのため大勢が庁舎を見に来る。富良野は誰が見にくる？デザイン、文化というものは必ず人を引きつける。新しいものを建てたら人が行き、集わなければならない。せっかく新しいものができるなら人を呼び寄せる建物にすべき。今無くて子供たちに必要な物は、ドイツのケルナーさんの遊具を駐車場なりどこかに作ること。群馬県高崎市は 2,000 万円～5,000 万円程度の建物の所に遊具を建てた。健康で手足が丈夫で考える子供が知能指数があがっているようだ。北市長にも訴えているが、富良野には子供たちにとって安心安全で考える遊具があるという、ブランド名が必要。富良野にいる文化人たちを、ブラン

ド名として構築してもらわないと澱んでしまう。新しいものを建てるなら子供たちの為に何をするか、安西課長調べてみてください。どの県がどういう遊具を使っていて、子供たちや親が何千人来場しているか。調査してもらったら価値観がわかる。ふるさと納税でお金が少しでも出たなら、文化、子供、教育、と裾野が広がっていく。ドイツのケルナーさんはすごくいいですから。藤井牧場さんが窓口でやっている。

桑原　ちなみに、今仰られたことを昨日本校の6年生が未来づくりフォーラムで提言している。

石平　素晴らしい！

桑原　要は富良野は子育てしづらい。ひとつは親子で楽しめる公園がないので、旭川のような施設を作ってほしい。親子で楽しめる公園があれば、周辺から人が集まり、昼食をとり帰ることができる。でも富良野は意外と家族で楽しめるレストランのようなものが無いので、結局ここでは食事せずよそへ行く、と子供の目線からでも気がついている。子供は想いと発想だけなのだが、それでいいと思う。あとは大人がどう受け止め、形にしてあげるかだけ。本校の子どもは「富良野のことが好きか」の質問に9割が好きだと答える。「将来住みたいか」の質問には、その割合は一気に半減する。つまり、今は好きだがずっとここに居たいかとなると、躊躇する。それは子育てしにくいとか、色んな意味での街の賑わいが無くなったからとか・・・。すずらん通りの名前も、富良野なんだからラベンダー通りで良いのではなどのアイデアがでたりする。子供の話しを聞きながら、お金があればいくらでもできるのにと、思っている。財政的には厳しい街だと感じている。

中村　昨日の未来づくりフォーラムでの話は、住んでいる人達みんなに聞いてほしい位、子供たちの発想と感度がすごかった。一番感動したのが、SDGsの話しで、子供なのに、誰かに何かやってではなく僕たちに何ができるか提案まで出していた。それに応援できる大人がいる街だったらすごい素敵な文化だと思う。今は仕組みが無いから難しいが、街全体として子供たちが提案した何かを叶えてあげるための財源をどう作っていくか必要。

桑原　東小はそういうスタンスでやっている。コロナ差別をなくすため、学校独自にラベンダーリボンプロジェクトを展開した。地域と学校を連携していく文化が根付いているので、言いっ放しでなく言うからにはできることは何かという発想で提案している。今回扇山は人口減少にスポットをあてて、種を蒔く一年にしている。今回問題提起したものを、来年度以降視点をコアにしていき、来年、再来年とブラッシュアップしていくので期待してほしい。

関　話の途中すみませんが、残り20分少々は少し文化芸術の話しをしていきたい。先ほど多文化共生や子育ての話しがでてきたが、私が今現在調査している愛知県は、子育てをダンスを用いてやっている。子育てするお母さんたちにはなかなか発散場所が無いが、子供とダンスをすることでストレスが軽減されている。国籍関係なく外国人と日本人が一緒に何かをやるのを見ながら文化芸術は社会的課題に対してアプローチできると感じた。こういう観点で、文化芸術が具体的に社会的課題を解決し、どう役に立つことができるか、アイデアがほしいし一緒に考えていきた

い。先ほど富良野市の方は表現が下手だという話があったが、表現力を高めるために演劇やダンスなどの文化芸術は、非常に役に立つと思う。

太田　僕は一生懸命表現教育をやっているつもり。コミュニケーションプログラムは相当な需要があるが、まだまだ体験していない人もいる。
多くの人に体験してほしいし、そういう機会を作ってくれると何回も繰り返してステップアップできるプログラムもある。人間というのは言葉や文字でコミュニケーションを取る機会が多いが、実際は体からたくさんのメッセージを送っているし、見てメッセージを受け止めていることを無意識の日常では、気が付かない。人前で話すことの勇気、コミュニケーション能力が自然と上がっていく滑舌のトレーニングは毎日、一生やりなさいと教えている。
僕が話すだけなので、お金は一円もかからない。

関　文化芸術の体験の中で、自分の生活が豊かになったとか経験ありませんか？

中村　富良野はゴミの出し方の問題がある、海外の人になかなか伝わらない。これは文化芸術で解消できると思う。ゴミステーションのサインもそう、ゴミ袋に英語など書いている訳でもないのにきちんと捨てろといわれてもできない。表現の方法は文化芸術だと思って、海外の人にわかりやすくピクトグラムにする等の工夫をするだけでも違ってくる。

太田　僕らのやっている演劇はなんの為にやっているか。実際には興行だが、お金を得るためだけにやっているのではなく、観客と我々作り手が「生きるって何だろう」「幸せって何だろう」と人間のありのままを考える為にやっている。例えば、子育て世代と子育ての悩みについて芝居を作ることが出来る。富良野高校で長年授業を持っているので、高校生たちと一緒に脚本を書くためには、高校生達の本当の悩みをテーマに掲げ、それをどう解決したらいいかを考える。同じことを街の人たちとすることができる。演劇をやりながら、色んな人達で悩みを共有していき、みんなでクライマックスを考える。これを街の人達と一緒にやれたら楽しいはずだし、是非やりたい。

桑原　これを言ったらもうお終いになるが、結局行政の覚悟の問題。富良野小から東川に転勤したが、東川の町長を始めとした行政が、本気で人に投資するという態勢で、工夫した街づくりがされ、子育てに優しく、人口が増えてきている。ふらの塾でロングランを行い観光客を呼ぶアイディアは、富良野らしくて最高だと私は思うが、演者に対する給金の問題が出てきた時に行政がバックアップしてくれる態勢が必要。富良野全体でふらの塾を育てていくという気構えでやっていけば最高だと思っているが、運営するにはどうしても財源の問題が出てくる。芽が出て木になり育てるには、それなりの年数がかかり、富良野市としてそれをしっかり支える覚悟があるか、無いかではまた違ってくる。行政の本気度を疑って見ている部分もある。

太田　ロングランを始めた時に石平さんは、毎回たくさんのチケットを買ってくださった。それは従業員全員に見てきなさいと、感想を書きなさいと、社員教育に効果的に使ってくれる。そういう

企業さんは他にもあり、そういう企業、人達と共に生きていこうと僕はあの時思った。東川はなんであんなに素晴らしい小学校の校舎ができるのか。

桑原　東川は中央からのお金の引っ張り方がうまい。学校教育もなぜそんなに潤沢な予算がつくかというと、文科省の指定事業を受けたり大変なことをやっている。大変だがその分財政的にはメリットもあり、住民も増えていくので税金も増える。

太田　パントマイム劇に呼ばれて行ったが、教室に扉がなく開口していて広い。東川の保育園の園長先生に気に入られ、保育士、園の関係者は毎年必ず僕のワークショップを受けてくれている。誰かが意識を持つとどんどん変わっていけるし、センスは一番大事。

石平　富良野にも日本語学校があればいい。ホテルやアウトドアの所に夜、バイトに行けばいい。そうすると富良野は外国人ウエルカムなんだとか、観光に行ってもその子達が活躍できるし、日本語学校の分校をお願いしたい。

吉田　自分が体験した多文化共生について、富良野ではないが、スクールで日本語を教えていた時、そこには台所があってパーティーになると自分の国の料理を作り持ち寄る。作り方を日本語で話すことで教材になったり、市民が日本語の授業の助けをしてくれたりした。日本語学校がなくてもコミュニティセンターに台所があるので、X‘マスとか持ち寄りパーティーをしたり、きっかけがあればいくらでも作れる。

藤田　吉田さんと私は中国語を今学んでいるが、先生が尺八を始めて、そのアシスタントの人がお琴を習いに行っている。濃い交流になるとレベルアップしてくる。中華料理の講習会をやろうという話も出ている。お金をかけなくても出来ることはあると思う。

関　東川の日本語学校を調査したことがあるが、町や町民から受け入れられている。文化活動や趣味の活動も行われており、習いたいことを、学校がコーディネートして町民も一緒に習うことが出来る仕組みは良いなと思った。一方で、技能実習生と町民との繋がりはないという課題もある。そういう課題を、学力関係なく、日本語を学んで直接富良野で職業体験をし、仕事に繋がるような仕組みが作られると、画期的だと思う。

石平　技能実習生は富良野によく来る。うちのスタッフは東川を卒業しており交流がある。

関　土壌があるのはすごく良い。東川は学力が高いと思われていて、それがきっかけとして大手企業に就職したりする人は多い。

石平　私たち現場としては作ってもらいたいものはたくさんある。あとは行政が進めましょうと言わないと、財源が必要なものなので。市民は、やる為にいくらでも汗をかくと思う。きっかけは行政が旗を振らないと厳しい面がある。

関　　行政は市民が声をあげないと作れないと思う。逆に私達の方で、計画などにちゃんと盛り込んでいくのがすごく大事。行政には申し訳ないが、書かれたらやらざるを得ない。必ず実現させたいものは、文言として残していくことが重要。

次の議題に移ります。
前回若い人の意見を聞きたいという話があったが、折角なので文化芸術に関する意見交換会を若い人を集めて開いたらどうだろうか。若い人達がどの位、文化芸術に可能性を持っているか聞けたらいいし、もし都合が合えば検討委員会のメンバーも参加してほしい。こういう場を開催することに関していかがですか。

中村　　すごくやってほしい。
ただ、若い人が意見を吸い上げられて、「何も叶わなかった」「これから将来富良野に居ても仕方ない」って思わないような設計をしないとやるだけ無駄、むしろマイナスに働く。そこだけは気をつけたい。

関　　実現するものだと思って来ないでほしい。年を取るとどうしても説教したがるが、本当はもっとフラットな感じで言わなければならない。50,60,70 代と 20 代が同じ場に座り、同じ課題に対して一緒に議論できる、言いやすい環境があればいいと思う。文化芸術だからフラットになれると思う。

桑原　　前回その話をしたのは、私です。富良野の場合、地域懇談会というのがある。あれに参加したことありますか？

中村　　あります。

桑原　　どうでしたか。

中村　　市長、部長たちが、円形になるでもなく、並んで市民と対峙している。雰囲気もすごく嫌でした。出るのは不満しかない。あの場で良くなるイメージはわかない。

桑原　　私が出席したときは円形だったが、圧倒的に参加者が少なく、行政に無関心。市民の声を拾う場を行政は、潰している。実効性が伴っていないから、やる意味がないと私は思う。若い人の言葉を聞く場を作ることは大事だが、どういうスタンスでやるかよく考えないといけない。

中村　　最初の設計が大事。3 年前、上は 80 代、下は 10 代で 100 人のワークショップをやり、一つのテーマに対し、多角的に色んな意見が出たが、設計するのがめちゃくちゃ大変で、可能性をひとつずつ消していかないとならない。ただ若い人の意見を聞きたいから開こうかというスタンスではまずいと思う。どうしたら話しやすいか、話したその後に何があるかまで設計して、集める

なら賛成。

桑原　その先ですよね。先を見越した上で、そういう場を作らないと「結局言ってもダメだ」という徒労感で終わってしまったら意味がない。

中村　見える化しないといけない。

吉田　意見を聞くのは、多分条例を作ることが目的ではなく条例を作る過程を皆で考えるのが必要ということで漫然と話していても・・・。新聞などに、面白いことをしている人にこの話題についてどう思うか取材してもらうのはどうか。例えば、文化条例検討委員会で話していることを記事にしてもらい、皆が読めるとか。集まってもなかなか漠然として出てこないので

中村　スマホで回答できるとかもいいですよね。

吉田　一斉に集まれないならZoomもあるし、意見交換会をYouTubeで見れるとか。

関　若い人の意見をどういう風に聞くかに関して、すごく徹底して設計する必要があると感じた。私自身としては、皆さんとしか話していないので、これが私の中で富良野の全てになる。これにはすごい危機感を覚えていて、本当は違う意見があり、もしそうならきちんと聞きたいと思っている。今の20代、30代の人達が何に悩んでいるのか、文化芸術で何か手助けできないのかも聞きたい。

太田　20代、30代に知り合いはたくさんいるし、意識の高い子もいる。いきなり集まれではなく、僕らが話せば集まるメンバーはたくさんいる。闇雲に集めるのではなく、まず我々の周りにいる人たちに、話してみるのが良いんじゃないか。自分たちが声をかけられる人たちでやってみて、またそこから広げていく。

関　急に条例が作られて、次は計画だと聞いた時に若い人達は「えっ・・何これ」ってなる。根回しではないが、情報を共有しながら進捗状況の報告もどこかでできたらいい。だが、なかなか文化芸術、行政に興味が無いのは大きな問題。Zoomでライブ配信して、その場でコメントをもらうこともできたらと思う。でもここはネットが繋がらないんですよね。

吉田　子供が小さかったり、雪も深くなるのでZoomでできたらいいと思う。

中村　この時間でなければならない理由はありますか？お子さんがいたらキツイですよね。

関　お昼とか午前中とか、或いは週末の午前中とか・・。私の経験ですが、札幌市の未来会議では、10人程度Zoomでやっていますが、対面でやっていると意見の交わし方にスピードがあるし、表情を見て場の雰囲気を汲み取ったりできる。Zoomだとそれが読み取れず限界がある。

でも参加できないのであれば、Zoom でやるしかない。時間を早めますか？

墓田　この時間にしたのはお仕事をしている人が多い為で、関先生のスケジュールを確認した上で、日時の調整は可能です。

関　時間がオーバーしましたが、充実した時間が過ごせました。次回は、日程調整をしてお知らせします。できるだけ多くの人に参加してもらい、議論していきたいと思います。